神奈川縣下の恙虫及び恙虫病(第2報)

兒玉 威 原田 文雄
石井 襄二 小竹 巖
山田健次郎 金杉 徳二
助川 信彦 時任 直人

Kodama, T., Harada, F., Ishii, J., Kotake, I.,
Yamada, K., Kanasugi, T., Sukegawa, N.
& Tokito, N.: Tsutsugamushi and
tsutsugamushi-diseases in Kanagawa
Prefecture (2)

1954 年度に調査を実施した地区は、奥湯河原方面(3月1日及び12月13日)、湯本町方面(3月24日)、津久井郡内郷村河津(5月17日、8月9日、10月8日)、愛甲郡煤ヶ谷村札掛(10月26日)、津久井郡青根村(11月4日)、足柄上郡三保村方面(11月9日及び12月7日)、足柄下郡仙石原村(11月16日)の7カ所である。恙虫の種類は、1954年2月までの総合成績では3属14種であったが、今回 *Trombicula* 属 (*Leptotrombidium*) として *palpalis* (津久井郡青根村、11月4日) 及び *scutellaris* (足柄下郡仙石原村、11月16日) の2種、更に *Shunse-
nnia* 属のもの1種(奥湯河原3月1日)、計1属3種を新たに追加して4属17種の多数となった。即ち *T. pallida*, *T. fuji*, *T. kitasatoi*, *T. miyajimai*, *T. himizu*, *T. tenjin*, *T. miyazakii*, *T. japonica*, *T. mitamurai*, *T. teramurai*, *T. intermedia*, *T. palpalis*, *T. scutellaris*, *E. ikaoensis*, *E. miyagawai*, *G. saduski*, *Sh. tarsalis* の17種で、その内訳は *Trombicula* では *Leptotrombidium* 11種, *Neotrombicula* 2種, *Euschöngastia* では2種, *Gahrlepiea* 1種, *Shunse-
nnia* 1種であり、*Neoschöngastia* は1種類も発見されていない。将来新たに追加を予想されるものとしては *Neotrombicula* に属するもの2, 3種であるが、*Leptotrombidium* としては略々この程度であろう。一方野鼠からのリケッチア検出成績にも大いにみるべきものがあり、今回の調査地区では煤ヶ谷村札掛を除く全地区(奥湯河原、湯本、阿津、青根、三保、仙石)の野鼠からそれぞれ陽性の成績を得ている。従つて神奈川県西部の山岳地帯は、北は与瀬から南は真鶴岬まで広く有毒地帯であり、今までの調査によつて既に判明している鶴見地区及び三浦半島と共に、極めて注目すべき地域であることがわかった。これら3地域の一部からは、既に恙虫病患者も摘発せられているが、今後とも西部山岳地帯からは本病患者の散発する疑が濃厚であると云わねばならない。今までの知見によれば、鶴見及び三浦半島地区における恙虫病

媒介者は *T. pallida* であろうと推定せられてきたが、今回の調査により仙石原村から *T. scutellaris* が採集されたため、当然この種類についても考慮せねばならなくなつた。次に内郷村阿津の季節別リケッチア検出成績では、5月と8月はともに陰性であつたが、10月初旬に初めて陽性の成績を得た。これは従来知られている本州東南部における恙虫病発生初期と一致する点で興味深い。この例をみても、神奈川県においては10月から12月一杯(おそくとも1月まで)の間に患者の出る可能性が最も濃厚である。このことは1, 2月頃から野鼠に対する恙虫幼虫の附着数が特に急激に減少することによつても略々推定できる。

(神奈川県衛研・衛生部・横浜市衛生局)

千葉県下の恙虫病調査研究(IV)

房総南部に於ける恙虫の季節的

消長とその疫学的意義

鈴木 武夫 七山 悠三
島村多之助 長井 和行
佐々 学 林 滋生
鈴木 猛 田中 寛
三浦 昭子

Suzuki, T., Nanayama, Y., Shimamura, T., Nagai, K., Sasa, M., Hayashi, S., Suzuki, T., Tanaka, H. & Miura, A.: Studies on scrub typhus in Chiba Prefecture IV. Seasonal occurrence of trombiculid mites in the endemic foci of South Boso District

千葉県南部に伊豆諸島等と同じく七島型恙虫病と考えられるものが発生する事は、既に報告したところである(千葉県下の恙虫病の調査研究 I. 1953)が、その後同地方の疫学調査、特に各種恙虫の季節消長に関して連続した調査を1年7ヵ月にわたり28回行つたのでその成績を報告する。採取地は、安房郡白浜町本郷(旧長尾村)の特定の丘陵地区で、毎月少くも1~2回、昨年10月の如きは4回の調査を行つた。この間に集められた宿主は、アカネズミ194、ヒメネズミ3、ハタネズミ7、ヒミズ12匹で、採取された恙虫は2属8種計19,603疋に達した。このうち、D地区はリンデン撒布効果研究を行つたので、季節消長の観察から省いた。他の地区のアカネズミに寄生する各種類の指数から判断すると、*T. scutellaris* は9月末に発生して12月初旬に頂点を示し1頭あたり237.6疋に達し、1月には急激に減少し、4月には消失している。これに比し、*T. kitasatoi* は1年中多